

# 令和2年度 学校自己評価表

学校番号	104	学校名	浜松市立高等学校
------	-----	-----	----------

教育理念	① 「学業」と「人間性」の両面においてバランスのとれた全人教育を実践し、「規律ある進学校」を目指す。 ② 日本の中央、政令指定都市・浜松唯一の市立高校として、地域になくてはならない、「選ばれる学校」を目指す。
教育目標	① 文武両道の教育方針のもと、知・徳・体のバランスのとれた人間を育成する。 ② 基礎的学力を十分に備え、自ら考え、判断し、行動できる人間を育成する。 ③ グローバルな視野をもつリーダーとして、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

今年度の取組	総合評価
ア 規律、責任、品位ある生活態度の定着 イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現と学力の向上、及び教員の授業力向上 ウ 大学や企業・地域・家庭等との連携や協働、貢献活動を通して、リーダーとしての資質能力の育成及び広報活動 エ 体系的なキャリア教育の充実と高い志を持った進路実現 オ 生徒の心身の健康・安全の確保及び教育環境の整備 カ 学校の組織力の向上及び業務改善の推進 改善	B 長期の休業、行事の削減があったため学校行事の充実への満足度は20%程下がった。しかし全体的には「学校生活に満足している」については「当てはまる」「やや当てはまる」(生徒87.7%、保護者94%)でほとんどが肯定的評価(生徒は昨年度より5%減)であった。またその他の項目でも8割以上の生徒・保護者が満足感を示しており、コロナ禍においても本校の教育活動が評価された。今後はコロナ対応や新教育課程への対応も踏まえ、ICT・アクティブラーニングへの取組をより深めることで、生徒の成長を支援していく。

NO	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ア	・「校門一礼」や挨拶の励行 ・正しい服装・言葉遣い指導 ・日常の交通安全指導、携帯安全教室・サイクルマナー教室の実施による事故やトラブルの未然防止	・「挨拶や言葉遣いはしっかりできている」「交通ルールやSNSのマナーを守る」等と答える生徒の肯定的自己評価を100%に近づける。 ・交通事故発生前年比10%減	B	コロナ禍ではあったが、概ね落ち着いた生活態度であった。生徒・保護者とも服装・言葉遣い等への自己評価は9割以上と高かった。一部着こなしに問題のある者や、自ら進んで挨拶のできない生徒も見られるため、日常の声掛けを繰り返し生徒自ら襟を正すようにしていきたい。 交通事故に関しては前年より11%減少しているが、ひやりとする小さな事故も多く、マナーを含めて粘り強く指導していく。
	・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用する。 ・主体的な家庭学習の定着を図る。	・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用していると答える生徒90%以上 ・月に2回以上家庭学習時間調査を実施し、生徒個々に適切な助言を行う。	A	学習時間調査を定期的実施し各自の振り返りや担任との面談に活用できた。例年通り、進路ダイアリーを通じて学習・生活指導をおこなうことができた。また記述内容に応じて個別に声かけをし、学習の振り返りについても行うことができた。さらにスタディサプリやGsuiteのアンケート機能により毎週の学習時間の把握などの工夫も実施した。今後はダイアリーや資料と連動させた活用法により家庭学習の充実につなげたい。約9割の生徒・保護者が課題や提出物の量が多いと感じているため、今後課題主体的に取り組む方法や内容精選、教科間での連携を図っていく。
	・清掃指導を徹底する。	・「清掃をしっかり行っている」と答える生徒95%以上	B	「清掃をしっかり行っている」と答えた生徒は92.3%。「校内はきれいに保たれている」と答えた保護者は87.3%であった。次年度以降「綺麗になっている」ことをもって意識させて清掃をおこなっていく。

NO	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年において初期・中期指導を実施し、勉強と部活動時間のバランス・心身の健康管理のとれた規則正しい生活習慣を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年集会学期に2回以上。</li> <li>「原則部活動時間19時まで」を徹底する。</li> <li>定期試験一週間前までの特別許可以外の部活動禁止を徹底する。</li> </ul>	B	<p>コロナ禍で各学年とも年度当初の初期指導等ができないことの影響の大きさを実感した学年団を中心に細かく丁寧な指導を実施し、生活習慣の定着を図ることができた。部活動については、各部テスト前の活動や時間についてルールを守りバランスの取れた活動を実施することができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細やかな学習指導の実践</li> <li>課題解決する力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業では学力を伸ばしてくれる」と答える生徒90%以上</li> </ul>	B	<p>コロナ禍で休業があったが、授業時数はほぼ例年と同じ量を確保できた。また生徒83.4%、保護者87.1%が「力を伸ばしてくれる」との評価をした。1月の研究授業(公開)にむけて授業改善に対する意識をアクティブラーニング委員会を中心に学校全体で高めることができた。プロジェクトの利用も進んでおり、今後は生徒の力が伸びる授業の実践例を増やしていく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導を推進し、学力伸長を図る。</li> <li>新しい大学入試に対応した指導の実施(授業・検定・進路課外等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進路指導が適切に行われている」と答える生徒90%以上</li> <li>平日補習、土曜補習、夏休み補習の講座を充実させる。</li> </ul>	B	<p>コロナによる休業等のため一学期は平日補習は実施できなかったが、夏休み・2学期以降は例年同様実施できた。また面談等も行い生徒個々への対応行えた。生徒86%、保護者81%とコロナ禍であったが一定の理解を得られた。</p>
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動を推進し、思考力・判断力・表現力を身につける。</li> <li>将来に必要な知識・教養を獲得する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビブリオバトルの実施</li> <li>「朝読書」の主体的な実施</li> <li>「図書室の蔵書は充実している」と答える生徒85%以上</li> </ul>	C	<p>1年生においてビブリオバトルを実施した。紹介する本の推薦すべき点を多方面から分析・考察しその魅力を周囲に示すことにより総合的に物事を理解する力・表現力の向上につなげることができた。今後得たものを今後に活かす姿勢を身につけさせる工夫や活動を継続していく。蔵書の充実への満足度は70.1%であり、月ごとの貸出平均は1.5冊で目標に達しなかった。生徒からの要望を取り入れた迅速な図書館蔵書の購入、新聞記事データベースの導入等、図書館の利用の工夫を進めていく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善を推進する。</li> <li>ICT機器を使用した授業の研究を推進する。</li> <li>アクティブラーニング型の授業・ICT機器活用授業の研究を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開一人年間1回以上、授業参観3回以上。</li> <li>生徒による授業評価2回実施。</li> <li>市教委・県教委の事業を利用した研修・授業検討会の実施</li> <li>外部の研修講座等に1人年間1回以上参加の呼びかけ</li> </ul>	A	<p>生徒による授業評価を全教科1学期末、2学期末に行い教育活動の振り返りをおこなった。また、県教委指導主事や大学研究者による校内研修、小中高の教員を招いての研修発表会を実施した。校内で授業公開した教員は100%、複数回の授業参観をした者は50%、校外の研修に参加した職員は58%(複数回以上の参加28%)で学び合う集団のづくりがなされた。校内外の様々な研修を通して、アクティブラーニングへの必要性への認識が深まり、具体的な取組が進んだ。今後も研修を活用して授業改善に取り組む。プロジェクト(11台)、Google Suiteアカウント(全生徒)の導入により、授業でのICT機器の利用が進んだ。教科・分掌間で連携しながらより効果的な利用法の研究共有を進めていく。また、ネットワーク、生徒一人一台パソコンの整備をおこない、より効果的な運用を目指す。</p>

NO	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学校としての部活動の充実</li> <li>・社会貢献活動を推進し、人権意識を高め、思いやりある豊かな心を育む。</li> <li>・生徒が他者・外部と関わり合うことを大切にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「部活動は充実している」と答える生徒95%以上</li> <li>・県大会以上出場25部活以上</li> <li>・年間で1回以上社会貢献活動(地域貢献活動・協働・連携等 自治会や同窓会との連携含む)を行う団体(部活動・委員会等)20以上</li> </ul>	C	<p>コロナ禍で大会の中止も多く、十分な活動や発表はできなかったが、各部が活動に工夫を凝らした活動を行えた。満足感・充実感を抱いている生徒・保護者は85%を超えた。県大会出場部活20部、全国大会出場部活10部と大会が実施できた部活動では例年同様の高い実績を残すことができた。また、生徒会を中心に清掃活動など地域貢献活動も実施できた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動、学級活動、行事、部活動を通じ、社会で必要とされる資質能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事が充実している」と答える生徒95%以上。</li> </ul>	C	<p>コロナウイルス感染症対応のため、文化祭、合唱大会は中止とした。体育大会は感染症予防のため応援合戦の中止など規模を縮小しての実施とした。体育大会を実施したことに対する生徒の満足度は高かったが、学校行事全体について充実への満足度は生徒59.4%と例年に比べ30%以上減少した。改めて行事の大切さを実感させられた。今後もできる範囲で工夫を行い行事等を実施していく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事掲載への働きかけ</li> <li>・広報誌「いちりつプレス」やHPブログ等を活用し、積極的かつタイムリーに情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事掲載20回以上</li> <li>・掲載記事校内掲示2か所以上</li> <li>・ブログアクセス数毎月250回以上</li> </ul>	A	<p>広報誌「市立プレ」を、2学期(93号と94号を合併)3学期(95号)は発行、生徒や各中学校に配布できた。さすなネットでの生徒・保護者への連絡も50件を超え(R3.1.15現在)、ブログのアクセス数も1日平均350程度のアクセスがあり、積極的な情報発信が行えた。新聞記事の掲載も30件(R3.1.15現在)で生徒の活動を発信できた。今後、図書館前のボードを利用して校内でも情報発信の工夫を行っていく。</p>
エ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体系的な進路行事の充実。</li> <li>・総合的な探究の時間の充実</li> <li>・郷土愛、職業観の醸成</li> <li>・主権者教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学模擬授業1回、大学見学2回、職業研究会、「浜市ふるさと講座」・政策提言の実施</li> </ul>	A	<p>進路指導では生徒86.1%、保護者81%、が満足のしている。コロナ対応のため、大学見学会は中止となったが、「浜市ふるさと講座」による政策提言から学問と地域の関係「大学模擬授業」の実施により大学教育と学問について関心を高めることができた。また各担任は複数回の面談を実施した。2年次から進路説明会を実施し、共通テスト等への情報提供を行い、継続的な進路指導を行うことができた。今後も生徒の適切な進路選択に向けて様々な活動を行っていく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験を大事に受験する。</li> <li>・個別試験対策(論述等の指導)の充実により、難関大学挑戦の生徒を支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験受験後に復習していると答える生徒90%以上。自宅受験を極力減らす。</li> <li>・入学時の志望進路の実現率60%以上。</li> </ul>	B	<p>コロナ禍のなかで、模試の中止や自宅受験を、日程変更や呼びかけにより減らすことができた。進路便りなどを活用し、模擬試験の事前・事後の指導、結果の分析も丁寧に行うことができた。小論文指導に全校で取り組むため、担当者一覧等を配布確認できた。</p>
オ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校事故の防止、特に熱中症に対する教職員及び生徒の注意意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症講座の実施年1回</li> <li>・5～10月熱中症計で計測し、毎週提出(夏季休業除く)する。</li> </ul>	A	<p>日々の気温・危険度の報告をGoogleFormを利用して行うことができた。また、教室等1F等気温が上昇する部屋での授業については臨時で教室変更等も行った。これらにより大きな事故は起こらなかった。今後冷暖房の導入、使用規定の見直しをおこなっていく。熱中症講座は放送により行い、科学的でわかりやすい話が講評であった。</p>

NO	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
オ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育・安全教育の充実</li> <li>・開かれた学校づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マニュアルや危機管理マニュアルを再点検し、改訂する。</li> <li>・防災訓練・防災教育年3回以上。</li> </ul>	B	<p>防災マニュアルを再点検し、被災時を想定したより現実的な対応が取れるよう内容を改訂した。</p> <p>防災訓練を機序訓練も含め3回実施できたが、コロナ感染症のため防災講演会は実施できなかった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1分間カウンセリングの実施</li> <li>・個人面談の充実</li> <li>・SCとの連携による相談体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生9月に実施</li> <li>・個別面談年間2回以上。</li> <li>・正副担任・学年主任等との情報共有</li> <li>・「教師は悩みや相談に親身になってくれる」と答える生徒90%以上(生徒・保護者に対する相談対応の満足度)</li> </ul>	C	<p>コロナにより年度当初が休業だったこともあり、生徒保護者からの満足は8割台にとどまった(生徒81.5% 保護 84.6%)。</p> <p>休業のため1分間カウンセリングは1月遅れで実施した。結果を担当のみならず、幾つかの事例では、スクールカウンセラーも交えたケース会議を行い、学年内・関係者間での情報共有し継続的な相談業務・支援につなげることができた。</p> <p>各担任も個別面談を各学期に行うことができた。今後も面談・ケース会議等により支援の充実を図る。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内外の美化・清掃や校内施設・設備の点検</li> <li>・学習環境及び設備等の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検学期に1回以上、不備な個所の改善。</li> <li>・清掃用具点検年間3回以上</li> <li>・環境整備委員会の活動年間6回以上</li> </ul>	C	<p>安全点検は十分に実施することができなかった。</p> <p>コロナ感染症対策のため、清掃用具、消毒関連品の多くを購入し、清掃の充実を図ることができた。</p> <p>環境整備委員も手洗い洗剤の補充やカーテン洗濯など、積極的に活動した。</p>
カ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画における行事等の配置や内容を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年・分掌、課長主任会等で意見の集約を図る。</li> <li>・教職員の本来業務(生徒に向き合う・指導の準備等)の時間確保のため、学校業務の整理・縮減を進め、出勤時間の適正化に努める。</li> </ul>	B	<p>今年度はコロナウイルス感染症の影響により年度前半については大幅な行事等の変更を余儀なくされた。しかし、課長主任会、職員会議等で意見を集約し、最終的には例年とほぼ同数の授業時間を確保できた。</p> <p>スタディサプリやGsuiteの活用により制限された中で学校の本来業務を進められる準備ができた。</p> <p>勤務時間については、学校再開後業務が集中し、削減を図ることが難しかった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に部活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動計画表の作成(年間又は各月)</li> <li>・各部活動月平均8日以上休養日の設定(年間を通じて)</li> </ul>	B	<p>毎月の部活計画表を作成し、計画的に活動を実施できた。休養日も大会日程等に合わせ、年間を通じガイドラインを守ることができた。大会が重なり休日の休養日が取れない期間があることが今後の課題である。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の一元化の推進</li> <li>・教育課題等を共有し、組織的に解決していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有フォルダを整理する。</li> <li>・課長主任会・課会・学年会・各種委員会等を活性化し着実に問題解決をしていく。</li> </ul>	C	<p>定例の学年会議、特進検討委員会、修学旅行検討委員会、ICT検討委員会等、面談等を通じて課題を明確化し検討を始めることができた。</p> <p>情報・データの集積はある程度できたが、共有フォルダを整理するには至らなかった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員、保護者アンケート等の評価及び意見等を、学校づくりに活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活に満足している」と答える生徒95%以上</li> </ul>	C	<p>コロナによる休業、行事の削減等により、満足度は生徒87.7%、保護者94%にとどまった。今後は、コロナ禍においてもできることを工夫して実施、また場面場面で生徒にも考えさせていくことをおこなっていく。</p> <p>PTA総会(第1回役員会)、学校評議委員会(第1回)は書面開催となったこともあり十分に意見を吸い上げることができなかった。来年度は工夫して実施する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な業務運用</li> <li>・会計等運用方法の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な業務計画の推進</li> <li>・学校予算運用の効率化</li> </ul>	B	<p>学則等諸規定を現状にあった形で運用できるように改定を行った。</p> <p>今後も適正かつ、効率的な会計処理等の見直し改定に取り組んでいく。</p>